

言語教育コース 国語教育系

コース紹介詳細は
Webページへ



取得免許(卒業要件)

小学校一種 + 中学校二種(国語)

または

中学校一種(国語) +

学生が近年取得したその他の免許

高等学校一種(国語、書道) など

あらゆる観点から国語教育をとらえ、追究する

国語教育系では、学校で学ぶ「国語科」にまつわるさまざまな問題を追究します。そのために、日本語学、日本文学(古典・近代)、漢文学、書写・書道、国語科教育学、日本語教育学など幅広い分野の学習・研究を通して考えていきます。

3年次からは、一人一人が関心のある分野について深く研究し、卒業論文に取り組んでいきます。それぞれの分野のスタッフがそろっていて、きめ細かい指導が受けられることが国語教育系の「強み」です。卒業生の多くは、小学校、中学校の国語の免許だけでなく、高校の国語や書道の免許も取得しています。また、大学で培った教科の専門性を生かして、小学校、中学校国語、高校国語の教員として、教壇に立って活躍しています。



● カリキュラム・特徴ある授業や取り組み ●

一年生では全学共通科目を中心に、学部入門ゼミ等の学部共通科目、初等国語科教育学など小学校の教科教育学を履修します。二年生では国語学、日本文学(古典・近代)、漢文学、書写書道等の専門科目に加え、中等国語科教育学法を履修、更に国語教育の演習もスタートします。三年生からは専門科目の演習に加え、各自一つの研究法(卒論ゼミ)を履修します。四年間を通して、専門的力量をもった国語教員の基盤を養います。

● 主な授業科目

1年次	2年次	3年次	4年次
学部入門ゼミ 初等国語科教育学 日本語教育概論	中等国語科教育学法 国語学概論 日本古典文学史 日本文学概論 漢文学概説 書写演習	国語学演習 古典文学演習 近代文学演習 漢文学演習 書道科教育学 国語科授業開発演習	国語学研究法 古典文学研究法 近代文学研究法 漢文学研究法 書写・書道研究法 文学教育研究法

中等国語科教育学法

中学・高校の国語科の授業づくりについて学びます。生徒が授業を通して、言葉について考え、言葉の世界の魅力や奥の深さを感じとれるようになるために、教師がすべきことを考えます。教材価値を生かす教材研究や、多様な考えを引き出し、深めるための授業の展開、発問の在り方について、意見交換しながら考察していきます。



国語学演習

平安時代の説話『今昔物語集』を題材に、ことばの意味の変化や当時の使い方について、学生が調べ発表する授業です。今と変わらないように見えることばが、実は平安時代には全く違う意味・文脈で使われることがあります。気づかなかったことに立ち止まり、調べていくことで、作品の魅力に気づけるようになります。



MESSAGE

学生メッセージ 3年生 M. F. さん (静岡県立三島北高校出身)

日々楽しく国語について学べる環境！

国語教育系では、教育学・文学・書写をはじめ国語を形成する幅広い専門的な分野を深く学びながら、教材研究や模擬授業等の実践がしっかりとできる充実した環境が整っています。また、先生方のサポートが手厚く、先輩や同じ目標を持つ同級生から刺激をもらえます。国語について学ぶうえでここは最高の環境だと思います。ぜひ一緒に学びませんか。



教員メッセージ 清水文博先生 (専門分野：書写書道教育)

さまざまな対話を通して自分と向き合ってみましょう。

書道では、昔の書を見て書くこと(これを臨書と呼んでいます)により、古人と対話しているような感覚になることがあります。教員を目指すにあたっては、自己や他者等とのさまざまな対話があると思います。手で書くことによって対話し、自分と向き合うことを書写書道の学びを通して考えてみましょう。



研究紹介①

齋藤 知也

～研究テーマ～

国語科教育学

文学教育を中心とした「読むこと」の教材研究と授業づくり

齋藤 知也 Saito Tomoya

中学校・高等学校の国語科の専任教諭としての授業経験を生かし、これからの学校教育を担う教員を目指す学生と、国語の授業の可能性を共有し、更に追求していきたい。

世界、他者、自己を問い続け、発見・創造する〈言葉の教育〉

言葉は、伝達のための道具としてのみ、あるわけではありません。言葉の本質は、私たち人間が、世界、他者、自己を認識するとき、既に言葉が介在していることにあります。

児童・生徒は、その言葉で、世界を学び、他者を認識し、表現するので。よって、「どのように語られているか」「どのように語るか」が、大きな問題になります。言葉が溢れているといってもよい時代のなかで、語りに着目し、吟味することの重要性は、より増しています。その際、文学は高い教材価値を持っています。

私は、「読むこと」の領域を中心として、「言葉とは何か」「語るとはどうか」を考える〈言葉の教育〉の在り方について、学生みなさんと共に研究し、学ぶ価値の実感できる小・中・高の国語科の授業づくりに寄与できるように取り組んでいます。

国語科教育を、「言葉とは何か」「対象を言葉で捉えるとはどういうことか」「言葉では捉えられない「他者」の領域とどう向き合うか」「語るとはどういうことか」などを考える〈言葉の教育〉として位置づける。

世界、他者、自己を問い続け、発見・創造することを可能にする「読むこと」の授業

「語り」や「他者」の問題に着目した文学的文章の授業 小説・物語・詩歌・随筆など	観点、論理の展開などに着目した説明的文章の授業 記録・説明・論議・評論など	昔の言葉が見せる世界から現代の在り方を考える古典の授業 古文・漢文など
--	--	--

「読むこと」における「言葉」の発見と獲得は、「書くこと」や「話すこと・聞くこと」にも生きていく。

児童・生徒にとっての学ぶことの価値や、教師にとって教えることの意味が、実感できる授業づくり(教材価値を創造する教材研究、多様な意見を引き出し、理解や思考を深める学習課題や発問の構想)

研究紹介②

長谷川 千秋

～研究テーマ～

日本語の文字・表記の歴史

長谷川 千秋 Hasegawa Chiaki

学部生の時に国語学の講義を聴き、ことばが変遷していく様に興味を持ったことが研究者を志すきっかけになりました。研究で培った方法論や恩師との出会いは、研究に止まらず、私の生き方の指針にもなっています。

ことばを通して、ことばの文化や人の生き方を見つめる

国語学の中で、日本語の仮名表記の歴史を研究しています。平安時代に「かな」が成立しましたが、奈良時代までの極めて合理的な表記システムである「万葉仮名(真仮名)」がなぜ「かな」に置き換わる必要があったのか、資料的な制約もあり研究上分かっていないことが多くあり、その謎を解く研究をしています。また、平安時代に、神楽歌などの楽曲や歌のリズムを、仮名だけでどのように表現しているかという研究もしています。

私がこうした研究に興味を感じているのは、文字を書き残した昔の人たちがどのような思いでその文字を綴ったのか、そこにどのようなことばの文化があったのか、その当時の人たちの思いや文化に迫りたいと思うからです。ことばを通して人と関わっていければと思っています。

同一行に、かなと真仮名が混在する合理的な理由はあるのか？



教職支援室・Instagram に私の授業風景を載せていただきました。
https://www.instagram.com/reel/DC77InqyM1d/?utm_source=ig_web_copy_link&igsh=MzRlODBiNWFlZA==

研究紹介③



日本語教員養成プログラム

～日本語教育を学んで世界とつながろう！～

「日本語教員養成プログラム」は、日本語教育を学ぶ副専攻のプログラムです。グローバル化していく現代社会において、国際性を備えた人材を育成すべく、2008年に山梨大学に開設されました。外国にルーツを持つ子どもの教育に携りたい人、国際交流や異文化理解に関心のある人、日本語教育を学んで世界とつながっていきませんか。(文責：仲本 康一郎)



外国につながる子どもと日本語指導